

## 冷蔵庫の電力消費量

土淵 昭

最近の省エネ型冷蔵庫は、およそ 10 年前の冷蔵庫に比べ、消費電力量が 3 分の 1 から 5 分の 1 になっていると言われており、カタログに 1 年間の消費電力を載せている。

その事に対して、日本消費者連盟が、数社のメーカーの冷蔵庫に、通常家庭で使用するように各種の食品を入れてどのくらい電力を消費するかを調べた所、メーカーにより異なるが、カタログに記載されている電力使用量の 2 倍から 6 倍の電力を消費する、と言う実験結果を発表した。

このデータをある新聞が取り上げて、省エネ型冷蔵庫と言うのは誇大広告で、でたらめである、と言う記事を出したので多くの消費者に不信感を与えた。

なぜそのように大きな違いが出たかについて、その後の調査によるとカタログにある消費電力量は、JIS に基づいて測定したもので、冷蔵庫の中は空で、また、霜取り装置は働かないような条件で測定している事が判り、通常使用する条件とは全く異なるものである事が判明した。

この点を車の例に当てはめると、新車をメーカーのテストロードで走らせたて、1L 当たり 15KM 走る、と発表されているものを都市の混雑する道路で走らせた時に 1L 当たり 5KM しか走れなかった場合、消費者はそのことについて特に苦情は言わない。

それは、道路が渋滞すればガソリンを多く消費する事を知っているからである。

そこで、問題になるのは、省エネ型の冷蔵庫が 10 年前の冷蔵庫に比べて本当に省エネになっているのかどうか、と言うことである。

実は省エネになっているのであって、カタログの値は、昔の冷蔵庫のカタログ値と比較して 3 分の 1 から 5 分の 1 になっている、と言うことで発表しているのであって、最近の冷蔵庫を実態に合わせたやり方で測定するのであれば、古い冷蔵庫も同じように実態に合わせた方法で測定して比較すればよい事になる。

要はカタログ同士で比較するか、実態同士で比較するかの違いである。

今回のトラブルを受けて、国は 5 月に冷蔵庫の JIS 規格を改定し、実態に近いモデルによる測定方法にしたので、最近のカタログは実態のデータに近くなっている。

NPO 法人足温ネット(正式名は足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ)は、以前から「古い冷蔵庫は最新の省エネ型冷蔵庫に買い替えれば、10 年以内に冷蔵庫を買った費用が節電による電気代で元が取れるし、温暖化防止にも役立つ」として、冷蔵庫を買い替えたい人に融資をしてきた。

その関係で、カタログ値が実態を現していない、との記事で利用者からの苦情に悩まされた事があったが、新旧冷蔵庫の実際の電気使用量を調査する事で解決した事を発表しているので、その記事の概要を伝えたい。

国分寺市の T 氏は、91 年に購入した C 社の冷蔵庫のカタログ値は年間 480KWH の電力量となっており、それを「エコワット」を使って調べた所、実際は 1,407KWH 使用する事がわかり、カタログ値の約 3 倍の電力量になる事がわかった。そこで、足温ネットは

同じ容量の最近の省エネ型冷蔵庫は、600～700KWH なので買い替えを勧めた。

T氏は、そこでS社の冷蔵庫に買い替え、エコワットを使って調べた所、年間690KWHの消費電力になる事が判った。つまり、今までの冷蔵庫の半分以下で、700KWH以上の節約になる事がわかった、と言うことである。

新旧の冷蔵庫で3分の1とか5分の1になる、と言うことは無く、約半分になる事が判ったが、一方、旧カタログ値同士の比較では電力量の節約は300～500KWHだったのが、実態に合わせた測定値では、電力量差が700KWH以上もあることがわかったのは大きな収穫である。とのことだった。